

# 令和5年度福島県協同農業普及事業外部評価改善報告書

令和6年3月25日 福島県農業振興課

普及指導課題名	視点2 ものづくり
---------	-----------

評価項目	評価	評価できる事項	改善すべき事項	左記への対応
1 普及指導活動の目標と課題設定	A	園芸産地の維持拡大と生産力の強化のために、担い手確保、育成、新技術の導入等により、収量や品質の向上、規模拡大等を目標としており、適切な目標と課題が設定されている。	改善すべき事項は特にはない。担い手育成、栽培面積の確保、高温対策については重要な課題であるため、今後も取り組むよう検討を期待する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手育成については、令和5年度から設置された「農業経営・就農支援センター」と県内七方部に配置した就農コーディネーターと連携し、新規就農者の確保・育成や、法人化を希望する農業者への支援をとおり、本県農業の未来を担う農業者の一層の確保に取り組んでまいります。</li> <li>・栽培面積の確保については、上記担い手の確保・育成と併せ、ほ場整備による農地の大区画化や畑地化、地域計画の策定による担い手の明確化と担い手への農地の集積・集約化を進めるとともに、共同選果施設の利用による作業時間の短縮と作付面積の拡大、スマート農業の更なる導入などを推進しながら、生産力と競争力を強化し、「もうかる」農業を実現することで、産地の維持・発展を図ってまいります。</li> <li>・高温対策については、米の品質低下を防ぐための施肥や水管理方法、トマト等の施設内の温度を下げ収量を安定させるミスト散水など、実用化された技術について、産地への普及を進めてまいります。</li> </ul>
2 普及活動の方法	A	産地の状況や対象者に応じたきめ細かい指導活動を実施しており、適切である。関係機関との連携、高い技術を有する生産者の協力体制、各種支援事業の活用は高く評価できる。	現在の方法は妥当である。今後は費用対効果の可能な限りの明確化、GAP取得後の展開なども考慮しながら成功例の拡大も期待する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用対効果の明確化については、スマート農業技術等の新技術の導入推進に際し、当該技術の導入による農業経営改善効果を示すものとして、スマート農業技術を含めた新しい技術の「実証成果と経営モデル」を作成し、福島県農業振興課ホームページに掲載し普及を図っております。今後、技術開発の進展等に応じて、適宜、「経営モデル」の追加や見直しによる精度向上等、普及指導活動において引き続き積極的に活用してまいります。</li> <li>・GAP取得後の展開については、更なる認証維持の意欲向上に向けて、生産者がメリットを感じられることが重要と考えております。このため、農業経営の改善や、販売力の強化につながった事例も示しながら、一層推進してまいります。</li> </ul>
3 普及指導活動の成果	A	昨年夏の気象条件の影響を考慮すると十分な成果があげられたと考えられる。特に施設化、新技術・新品種の導入については成果として高く評価できる。	さらなる成果が得られるよう現在の活動を継続するとともに、情報発信・活用方法などの工夫の検討も期待する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新技術等に関する情報発信等については、各農林事務所において、高度な技術を有する農業者と連携して、栽培現場での指導会の実施や動画の作成などにより、農業者に技術のポイントを分かりやすく伝えるとともに、指導農業士等を講師とした技術研修や産地の技術力向上に向けたセミナーを開催するなど、引き続き、効果的に情報発信しながら、産地の持続的発展につなげてまいります。</li> </ul>
4 総合的な評価（見直しが必要な場合は、その内容を記載）		県内有数のブランドである「岩瀬キュウリ」と「南郷トマト」の産地維持拡大と生産力強化のために、地域の実情にあった効果的な普及指導活動が行われていると高く評価する。 今後も産地のブランドの強化や生産者の所得向上を目指し、魅力ある福島の農業が展開されるように活動を継続してほしい。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランドの強化や生産者の所得向上については、市町村やJA等の関係機関・団体と連携し、きゅうり栽培の施設化や、集出荷施設の利用促進による省力化と作付面積の拡大、ものの品種構成改善による長期安定出荷の確立、米や果樹、花きにおける県オリジナル品種の導入拡大など、生産性や品質が優れ、産地に適した品目の生産力の強化に取り組み、魅力ある福島の農業の展開を進めてまいります。</li> </ul>

※評価の目安 A：妥当である B：一部見直しが必要 C：見直しが必要